



巻頭特集 **ご当地信州味噌メーカー マルマン株式会社**に聞く

パイオニアであり続ける 老舗の矜持

信州味噌の特徴は、山吹色とほど良い塩分そして旨味。いまや信州のみならず、関東、関西にもシェアを持つ味噌メーカーは明治21年に産声を上げた。革新と情熱に彩られた信州味噌の歴史が垣間見えるマルマン株式会社の歩みを紐解く。



(上)信州味噌の歴史は長い。古くから長野県味噌工業協同組合連合会が大小のメーカーを束ね、研究と商標管理を行い、大切にブランドを育ててきた。マルマンの基礎にも横のつながりが生かされている(左)社団法人発明協会から表彰された速醸法。当初は炭を焚いて仕込み樽を加熱し、微生物の活動と酵素の働きを最大限に引き出していた。「自宅で作る人も、なるべく保温して酵素が働きやすい環境づくりをしてください」と林社長は話す

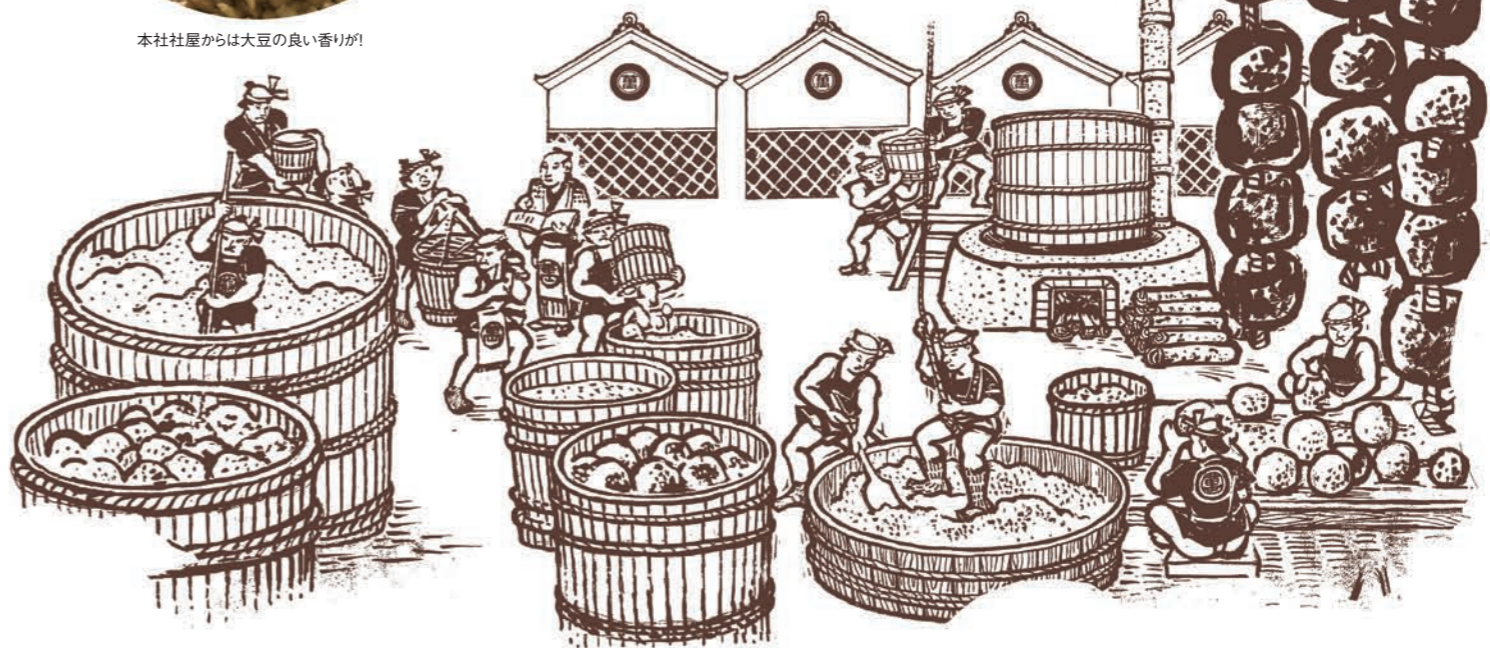


マルマン創立時
明治初期
古式醸造
の作業状況

実はほかの信州味噌メーカーよりも、創業が遅かったというマルマン。当初はもちろん天然醸造で、のちに速醸法を開発。開発者である中田栄造氏は「味噌の神様」の異名を持つ



本社社屋からは大豆の良い香りが!



危機を幾度となく
乗り越えた飯田の老舗

無添加生みそ、有機生みそ、減塩みそ。市内の味噌コーナーには、オーガニックや無添加など、健康志向の商品が並ぶ。そのいくつかは地元メーカー、マルマン株式会社の商品だ。こうした味噌が昭和50年代から開発されていたと、知っている人は少ないだろう。

創業130余年を数えるマルマンの指揮を執るのは、30年にわたり工場で経験を積んできた代表取締役社長、林隆仁さんだ。優しい表情ながら職人気質を感じさせる鋭い視線で、無添加シリーズの誕生秘話を語ってくれた。

「危機的状況に陥ったのは、平成5年の米騒動のころ。化学調味料を使用した、だし入りタイプが登場し、普通の製品では売れない状況になりました。そのため、当時の60代をターゲットとしたのです」



マルマン株式会社
営業部長代理兼営業企画部長
中田泰雄さん
4代目の中田教一氏の息子。「焼肉の街 南信州 飯田の辛みそ」「焼肉のポのキーマカレー」など地元の魅力を発信する製品を、若手社員や精肉店と開発している

「100人にひとり」が、うちの良さをわかってくれればいい」。新たな味への情熱が多くの人を惹きつける



マルマン株式会社 代表取締役社長
林隆仁さん
東京農業大学醸造科学科の在学中は、日本酒の酵母を研究。発酵の魅力に取りつかれた。信州の名工、信州ものづくりマイスターの肩書も持つ



あえて万人受けを狙わない、ターゲットを絞った製品の数々は個性的なものばかりだ。原料や製法を定め、規格化していくのは「各社が開発してきた味噌の多様性を損なう」として、提言を続ける姿勢を明確にしている

真にマルマンの名を全国に轟かせたのは、昭和19年、3代目中田栄造氏による「中田式速醸法」の開発だろう。普通ならば8カ月以上かかる醸造日数を、20日まで短縮。終戦直後の食糧難を救った。

「栄造は醤油屋を目指していましたが、全国の蔵を行脚する中で学んだ酵素の働きやすい醸造環境を、応用したのです」

栄造氏は特許を取得するも、中小企業に中田式速醸法を無償公開。その後、ますます盛んに製造された信州味噌は、たちまち全国への進出を果たしたのだった。

有機JAS認定の味噌づくり
大豆の栽培面積は666ha!
「主原料である大豆・米を有機栽培し、究極の無添加味噌を作りたい」。他メーカーによる無添加味噌の製造が始まったころ、生み出したのは有機(オーガニック)シリーズだ。その実現には高いハードルがあった。

も事実だ。しかし、豪胆な林社長はそんな心配も一笑に付してしまう。「手付かずの農地があまりあるウランホトでは、農薬の心配はおろか、高地のため害虫も少ないなどメリックトづくし。こうした良さをご理解いただける方も多くいます」

追熟とラベリングは国内で行うほか、農薬については、790項目にのぼる検査で、安心・安全を実現した。近年では、「焼肉の街 南信州 飯田の辛みそ」や「信州産りんご酢」など、信州らしさをアピールする商品も新開発。安定感の強いマルマンだけに、チャレンジの必要性は低いのではと問うと、林社長は首を振った。

「トライ&エラーは、必ずやレギュラー商品のアイデアにつながります。『やりながら考える』が、会長でもある4代目・中田教一の教えですから」

一般的に良いイメージとして語られる「老舗」「伝統」という言葉には、かたくななイメージがつきまとう。だが林社長の話しぶりからは、決して驕らず柔軟であり続ける決意がぞいでいた。



(左)どんなに高精度の工場になっても、高品質を守るのは扱うスタッフの手腕。目標は、匂いやスタッフの動きを確認するだけで質がわかる状態だという(右)平成3年には、無添加生みその品質を保持する特殊個包装を開発。開発型企業であるとする姿勢がより鮮明になった



本社は大規模生産ができる工場を併設。人がすっぽり入るほど大きい設備を整え、さまざまなニーズに応えている

information



信州 **マルマン株式会社**
飯田市大通2-217
TEL 0265-22-1234
オンラインショップ
<http://www.maruman-miso.jp/shop/>